

# 資源ごみの品質評価で最低ランクに！ 適正な分別にご協力を

ごみを資源とするためには、品質の確保が必要です。材質の異なるもの、汚れの付いているものは資源として利用できませんので、適正な分別が必要です。

ごみの収集から処分までを行っている十和田地域広域事務組合（1市3町1村で組織）では、プラスチック製容器包装を圧縮・梱包した後、財団法人日本容器包装リサイクル協会に引き渡しています。そして、再資源化に適しているかの検査が行われています。

今年6月の検査では、表のように残念ながら最低のDランクとなり、改善勧告を受けました。改善がみられない場合は引き取り停止となるなど、再資源化へのルートが閉ざされ

表 プラスチック製容器包装  
べール品質評価

プラスチック製容器包装		72.64%
異物	汚れの付着したもの	16.8%
	ペットボトル	3.04%
	容器包装以外のプラスチック製品	3.2%
	事業系廃棄物、その他	4.32%
異物合計		27.36%

※保管している中から任意の量を取り出し手作業で分別した比率評価。プラスチック製容器包装比率が90%以上でAランク、85%以上90%未満でBランク、85%未満はDランクとなります。

てしまう恐れがあります。

品質が改善されたかどうかの検査が10月に予定されています。資源として再利用できるように、今一度、分別の再確認をお願いします。

## 見直そう、リサイクル分別

◆食品や洗剤などの汚れは、水洗いや拭き取りできれいにしてから出し、汚れの取れにくいものは「燃えるごみ」に分別してください。

◆入れもの、包みものである容器包装がリサイクルの対象となります。バケツなどの日用雑貨品やおもちゃ、ビデオテープなど、容器包装以外のプラスチック製品は「燃えるごみ」に分別してください。

◆使い捨てライターは、使い切つてから「燃えるごみ」に分別してください。



## 問い合わせ先

▽ごみの分別・出し方 生活環境課

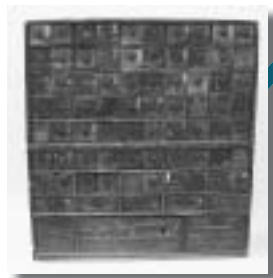
(☎②⑤111内線225)

▽ごみの収集・処理

十和田地域広域事務組合業務課

(☎②⑥54)

# おんごちしん 温故知新



薬味簞笥

歴史 幕末～明治時代  
別代さ 85cm  
幅行 89cm  
種時高横奥 25cm

右の写真の薬味簞笥は十和田市で最初の医者である河津周甫が使用したものです。

薬味簞笥とは、漢方医がたくさん薬を入れておくためのもので、79個の引き出しがついており、材質は全て桐で作られています。また、引き出しには、「生姜」や「乾姜」、「茯苓」など漢方薬の名前が書かれています。

下の写真は、河津が愛用した往診箱と手術器具で、臓器を押さえるものや骨を削ったり、腫瘍をかきとったりする器具が入っています。

当時の治療は、現在と異なり、医者が患者の家に行き治療を施す往診でした。

医者は往診箱に手術器具と薬味簞笥の中の生薬を包み紙などに小分け

## 市郷土館資料から最終回

し、薬箱に入れて持ち運び、患者に合わせてその場で薬を調合したようです。

この簞笥や往診箱を使用していた河津は伊豆の出身といわれ、「漢方」と「蘭法」を身に付けた名医であったそうです。河津が三本木村（現十和田市）に来たきっかけは不明ですが、明治の初めに北海道から帰る旅の途中、相坂付近で病人の治療をしたことが縁で稲生町に住んだといわれています。



往診箱と手術器具

歴史 幕末～明治時代  
別代さ 27.2cm  
幅行 12.2cm  
種時高横奥 23.3cm

※今回で温故知新の連載を終了します。郷土館は約一万二千点の資料を収蔵し、展示物は定期的に展示替えを行っています。どうぞ郷土館へお立ち寄りください。

## 問い合わせ先

郷土館 (☎②⑥515)